

教育の探究、(3)平和に貢献する科学者の責務の遂行、が今期活動の重要目標とされている。

ついで「第12期における課題および各種委員会(研究連絡委員会を除く)の整備について(申合せ)」が提案され、(1)委員会の構成および運営上の事項 (2)委員会の任務、課題について (3)運営審議会付置小委員会について説明された。常置委員会としては国際学術交流、学術体制、研究費問題、長期研究計画、科学者の地位および学問・思想の自由の6委員会、特別委員会としては、平和と科学、教育問題、科学・技術振興機構、エネルギー・原子力、学術情報・資料、発展途上国学術協力問題、自然災害問題、環境問題、生物資源および国際協力事業の10委員会が設置された。なお、運営審議会付置として広報等毎期常設の委員会の外に日本学術会議改革、研連検討、沖縄学術連絡の各小委員会が設置された。

休憩後、15時17分「第12期における研究連絡委員会問題の根本的改革について(申合せ)」の提案があり、数名の会員から質問がだされ、翌日になお審議を継続することとなった。

第2日は10時2分再開、冒頭、第1日に採択された「課題及び各種委員会の整備について」の文言修正について報告があり承認された。

ついで、前日に引き続き「研究連絡委員会問題の根本的改革について」審議が行われ、活発な意見が述べられた。

さらに、第12期における根本的な改革に至るまでの暫定的措置をとりきめる「第12期における研究連絡委員会の組織・運営に関する当面の措置について(申合せ)」が提案され質疑がかわされた。12時45分再開後の総会で、文言の修正を行なった前記二つの提案が採択された。

13時より各部会が開かれ、常置、特別、運営審議会付置の各委員会委員の選出を行なった。それに基づいて16時より各常置委員会、16時30分より各特別委員会が開かれ、委員長、幹事を選出した。

第3日は10時より前日に引き続き各常置、特別委員会が、15時まで開かれた。各委員会では、今総会中に役員決定のみでなく今期の委員会活動について実質的審議をはじめるという趣旨に基づき、委員会の任務、方針が討議された。15時より運営審議会付置の各委員会およびICSU等の分科会が開かれ、ここでも、それぞれの任務、審議事項が議せられ、役員が決定された。かくして、第12期のすべての委員会が早くも体制を整え、活動を開始することとなった。

総会の出席率は、第1日91.9%、第2日95.2%、第3日93.3%であつた。(日本学術会議広報委員会)

次号目次案内

鉄と鋼 第67年 第10号(8月号)目次

技術資料

溶接部の水素による遅れ割れ……………鈴木 春義・百合岡信孝
自動車用特殊鋼の最近の動向(2)……………加藤 哲男・阿部山尚三・上原 紀興

解説

鉄鉱資源とその開発の現状……………西田 信直
真空熱処理の動向……………山中 久彦
金属資源シリーズニオブ……………植木 正憲・門 智
最近の光通信技術の進歩……………末松 安晴

論文・技術報告

鉄鉱石の小型高压流動還元実験装置
……………西川 泰則・佐藤 享司・植田 芳信・鈴木 良和・佐山 惣吾・佐藤 俊夫
溶融 Fe-C 合金における相互拡散係数の温度依存性
……………鱈部 吉基・高井 章治・藤澤 敏治・坂尾 弘
MgO 焼結体の溶融 Fe_2O_3 -CaO-SiO₂ 系スラグへの溶解速度……………馬越 幹男・森 克己・川合 保治
Fe₂O₃-SiO₂-CaO-MgO 系スラグの MgO 飽和溶解度と Fe³⁺/Fe²⁺ 平衡……………沈 載東・萬谷 志郎
MgO 飽和 Fe₂O₃-SiO₂-CaO-MgO 系スラグと溶鉄間の酸素の分配……………沈 載東・萬谷 志郎
Na₂O-SiO₂ 系スラグ中の硫黄の状態および硫黄と鉄の相互作用……………岩本 信也・巻野勇喜雄・西村 泰輔
冷間圧延中に生成するスマッジおよび鉄酸化膜……………駒井 正雄・福山 敏・佐藤 台三・池高 聖
厚肉 UOE 鋼管製造のための大電流 MIG+タンデムサブマージーク溶接法の開発
……………平林 清照・平 忠明・市之瀬弘之・平野 攻
80 kg/mm² 級高張力鋼の Ca 添加による応力除去焼なまし割れの改善
……………大野 恭秀・岡村 義弘・矢野清之助・藤井 利光・山本 広一
下限界応力拡大係数 K_{ISCC} の AE による評価……………野末 章・岸 輝雄・堀内 良

Fe-15Ni-Co-Mo-Ti 合金のマルテンサイトからの逆変態オーステナイトの細粒化	中沢 興三・河部 義邦・宗木 政一
Hastelloy X の高温クリープ特性に及ぼす結晶粒度の影響	近藤 義弘・松尾 孝・(故)篠田 隆之・田中 良平
ステンレス鋼の疲労過程における内部摩擦の変化	藤田 春彦・田中 学・神谷 修
蛍光X線分析法による鉄鋼中微量アルミニウムの定量	伊藤 六仁・佐藤 昭喜・成田 正尚
新しい技術	
底吹き転炉による鋼の大量生産技術の開発	太田 豊彦・三枝 誠・数土 文夫・野崎 努
微圧振動による燃焼制御技術の開発	大谷 啓一・小田原隆一・鈴木 富雄・森本浩太郎・阿部 亨・森川 哲・明石五十六・田中 雄司
直接的張力検出方式による棒鋼の無張力制御システム(SNTC)の開発	松井 利光・美坂 佳助・緒方 俊治・浅川 基男・近藤 勝也
随 想	
山のぼりと研究	二木 久夫
海外だより	
ニューキャッスル大学	坂本 政祀

Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan Vol. 21, No. 8

Special Lecture

The Japanese Economy and the Steel Industry —Issues for Iron & Steel Industry in the 80's—
By Hisao SHISHIDO

Research Articles

Dephosphorization Reaction by Sodium Carbonate and Sodium Sulfate
By Ryo INOUE and Hideaki SUITO

The Role of the Peritectic Reaction in the Formation of the Equiaxed Zone in Iron Base Alloys
By S. N. TIWARI and J. BEECH

Activities of Manganese and Silicon in δ -iron at Solid-Liquid Equilibrium Temperature
By Tohiharu FUJISAWA, Kazuya IMAOKA, and Hiroshi SAKAO

Mechanical Behavior of Coke as Material with Randomly Distributed Pores
By Mitsutoshi ISOBE, Kichiya SUZUKI, Mitsuru TATE, and Hideo KITAGAWA

Application of Statistical Design of Experiments to the Quantitative Study of the Strainageing Characteristics of Nb-bearing HSLA Steel
By R. I. GANGULY and A. K. PANDA

Theory on Deformation Behavior of A Liquid Droplet Impinging onto Hot Metal Surface
By Kazuo ARAKI and Akira MORIYAMA

An Electrochemical Study of Silica Diffusion in Liquid CaO-SiO₂-Al₂O₃-CaF₂ Slags
By P-O MELLBERG and P-Å LUNDSTRÖM

Report

Water Atomization Characteristics in Crossflow Type Fog Nozzle and Water Flux Distribution of Fog Flow Ejected from It
By Masashi MITSUTSUKA and Keiji FUKUDA

Abstracts from Tetsu-to-Haganè, Vol. 67 (1981), No. 9 (July)
Institute Announcement and Report
Contents of Tetsu-to-Hagane, Vol. 67 (1981), No. 9 (July)

Abstracts from Presentations to the 101st ISIJ Meeting
—Part II (continued on from Vol. 21 (1981), No. 7)—

~~~~~  
会員は「鉄と鋼」あるいは「Trans. ISIJ」のいずれかの会誌が配布されます。「鉄と鋼」と「Trans. ISIJ」の両誌希望の会員には、特別料金 4,000 円の追加で両誌が配布されます。